

## 立毛乾燥による飼料用米生産の低コスト化

## 目的と特徴

- ・ 粳の乾燥費は、生産費の中で占める割合が高いため、飼料用米生産では乾燥費の低減が重要な課題となっています。
- ・ そこで、全国各地において出穂後積算気温や日数に対応した粳水分の低下条件を検討し、圃場で粳を乾燥させる「立毛乾燥」達成の条件を明らかにしてきました。



乾燥費用は生産物にかかる費用であり、  
生産規模の拡大や省力化によるコストの低減が困難

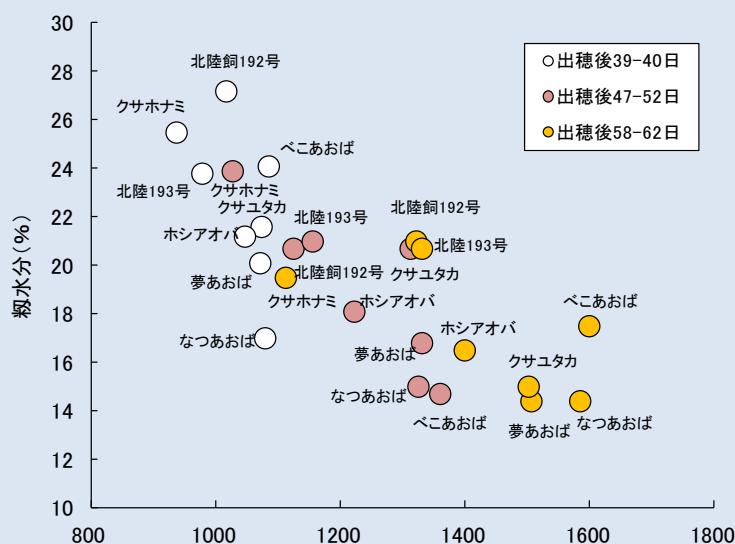
一般食用米の収穫条件  
 粳水分：21～26%  
 出穂後積算気温：1000～1100℃  
 出穂後日数：30～45日（気象により変動）

出穂後の積算気温 1400℃以上  
 成熟期到達後10～14日  
 立毛乾燥による乾燥費の節減へ

## 成果

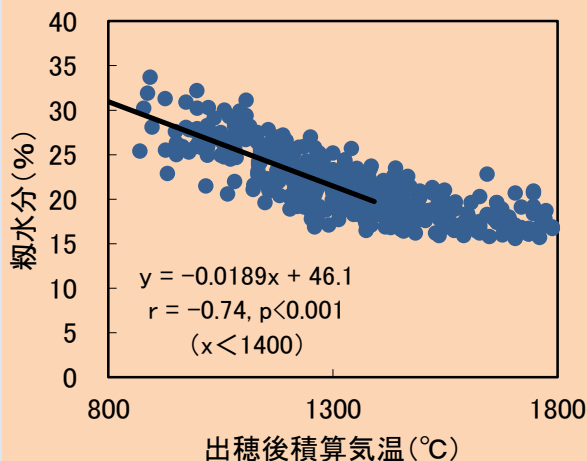
- ・ 立毛乾燥による粳水分18%以下の目安（地域や気象条件により増減する）は、早生・中生品種：出穂後50日、晩生・極晩生品種：出穂後60日です。
- ・ 出穂後の積算気温（日平均気温の積算値）が1400℃を超えると粳水分を20%以下に低減できますが、それ以上、放置しても水分の低下程度は小さいです。

## 出穂後積算気温と籾水分の関係



出穂後積算気温(°C)

中央農研北陸研究センター



山形県農業総合研究センター

\* 各地の現地試験において、立毛乾燥により16~19%を達成

## 立毛乾燥条件

- \* 出穂後の積算気温(日平均気温の積算値)が1400°Cを超えると籾水分を20%以下に低減できます
- \* それ以上、放置しても水分の低下程度は小さいです
- \* 早生・中生品種: 出穂後50日, 晩生・極晩生品種: 出穂後60日

## 必要な品種条件

- \* 耐倒伏性: 倒伏すると籾水分は低下しません
- \* 非脱粒性: 脱粒しやすいインド型品種は、収穫ロスが増加します

## 対象作物、普及対象

- ・ 水稻、全国

## 対象農家

- ・ 飼料用米生産農家

## 必要な道具

- ・ 特になし

## 関連HP

[http://www.naro.affrc.go.jp/nilgs/project/jiky\\_pro/029451.html](http://www.naro.affrc.go.jp/nilgs/project/jiky_pro/029451.html)

## その他

- ・ 地域の気象条件に応じて適用条件を決定する必要があります。特に、成熟期以降に降雨が続くと、籾水分の低下は困難で飼料品質も低下します。
- ・ 栽培品種の特性(耐倒伏性や脱粒性)を考慮して技術を導入する必要があります。

委託プロジェクト研究(国産飼料プロ)

平成25年3月 農林水産省農林水産技術会議事務局研究統括官室